令和6年度（2024年度）
地域別検討協議会

～　本道の公立高校を取り巻く課題とその対応方向　～

北海道教育庁学校教育局高校教育課

本日の説明項目

① 高等学校の目的等と本道の高校教育を取り巻く状況

② 中学校卒業者数の減少への対応

③ 修学を支援する制度

④ 生徒の多様な学習ニーズへの対応

①　高等学校の目的等と
本道の高校教育を取り巻く状況

高等学校の目的

○　高等学校は、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育及び専門教育を施すことを目的とする。

高等学校教育の目標

①　義務教育として行われる普通教育の成果を更に発展拡充させて、豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと。

②　社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること。

③　個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。

本道の高校教育を取り巻く環境

中学校卒業者数の
大幅な減少

高校進学率が98%を超え、
生徒の学習ニーズが多様化

国際化、高度情報化、
環境問題の深刻化などの
社会の変化

「新たな高校教育に関する指針」
（平成18年(2006年)8月策定）

「これからの高校づくりに関する指針」
（平成30年（2018年）3月策定）

「これからの高校づくりに関する指針（改定版）」
（令和5年（2023年）3月策定）

【公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律】

第４条　都道府県は、高等学校の教育の普及及び機会均等を図るため、その区域内の公立の高等学校の配置及び規模の適正化に努めなければならない。

- 中学校卒業者数の状況
- 欠員の状況
- 生徒の進路動向
- 学校・学科の配置状況
- 私立高校の配置状況
- 地域の実情

地域別検討協議会の開催

公立高等学校配置計画の策定

○中学生の早い段階での進路選択に資するよう、毎年度、３年間の具体的な配置計画と、その後の４年間の見通しを提示

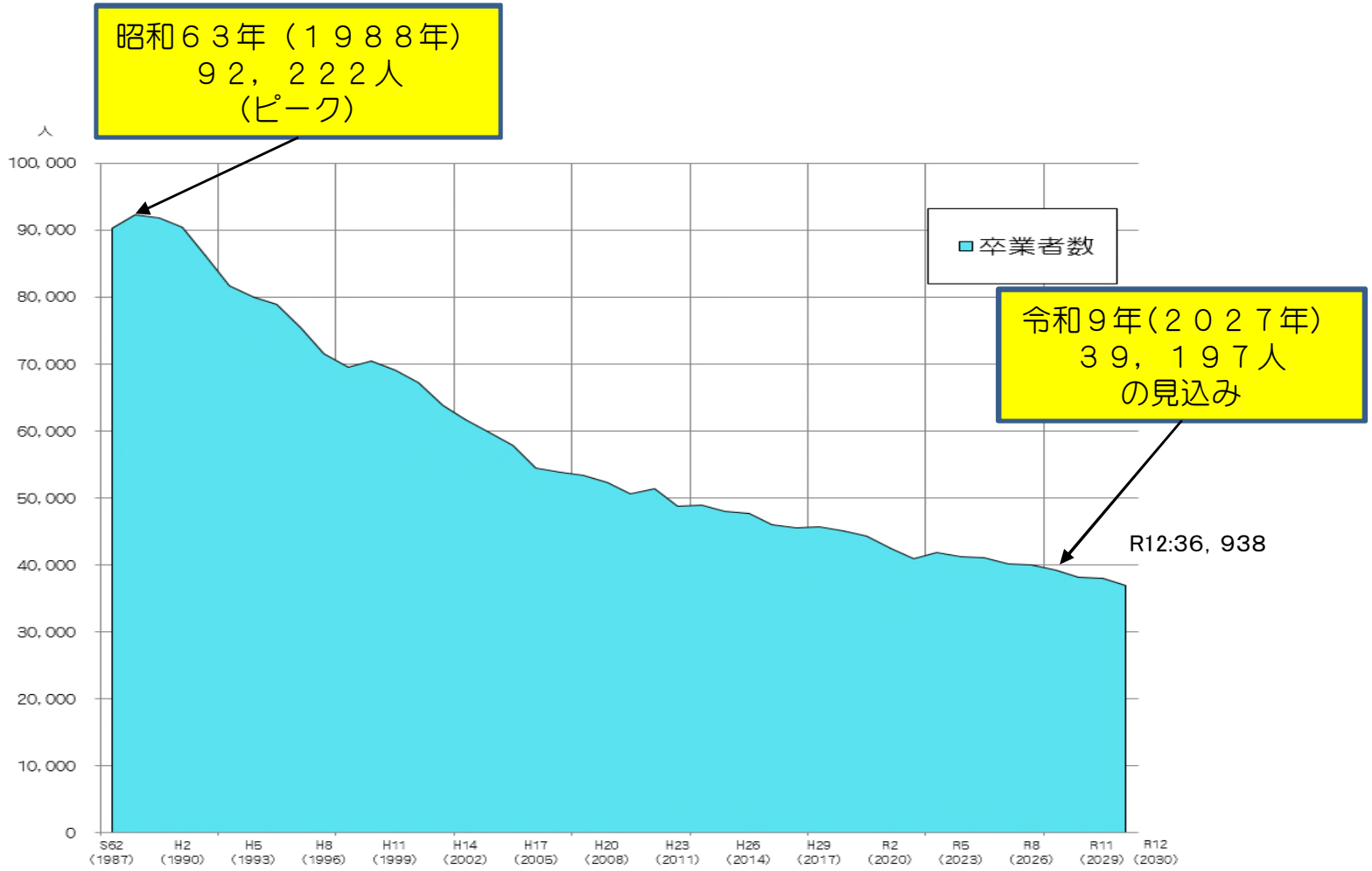
○急激な中学校卒業者数の増減や生徒の進路動向の変動などが生じた場合は、必要に応じて配置計画の一部を変更

○令和６年度（2024年度）は、昨年９月に策定した令和８年度（2026年度）までの配置計画に令和９年度（2027年度）の姿を加えた３年間の計画を策定

②　中学校卒業者数の減少への対応

・教育水準の維持向上と教育環境の充実
・高校進学希望者数に見合った定員の確保

本道における中学校卒業（見込）者数の推移
（昭和62年（1987年）～令和12年(2030年)）



（注）１　昭和62年（1987年）3月～令和5年（2023年）は実卒業者数である。
　　２　令和6年（2024年）～令和12年（2030年）は学校基本調査（令和5年（2023年）5月１日現在）に準じた調査による在籍児童・生徒数を基に推計した。

高校の小規模化（学校規模等）

高校の小規模化

○生徒一人一人に対するきめ細かな指導の充実

○教員配置数の減少

（校長・教頭・教諭・養護教諭）

＜標準法＞

- ４学級規模　３０人
- ３学級規模　２５人
- ２学級規模　１８人
- １学級規模　１０人

（※１学級規模については、道単で２人加配　10人→12人）

※学級規模が減少するに従い、教員配置数が減少する。

○切磋琢磨する機会の減少

- 同世代の多くの考え方に触れる機会の減少
- 多くの教職員の指導による多様な見方や考え方を学ぶ機会の減少

○地域の教育資源や人材を活用した教育活動の充実

○設置科目数の減少

- ４学級規模　４３科目程度
- ３学級規模　３６科目程度
- ２学級規模　３２科目程度
- １学級規模　２８科目程度

※全日制普通科単置校の共通教科・科目の比較。
学校により相違がある。

※学校規模が縮小するに従い、選択科目が減少する。

○部活動の停滞の懸念

- 部活動の種類が限定
- サッカー、野球、吹奏楽など多人数の活動が困難

部活動の状況

道立高等学校（全日制）【R2（2020）．5．1現在】

1　部活動の平均設置数

第1学年の学級数	部活動の平均設置数	
	体育系	文化系
6学級	13．4	13．3
4学級	10．4	9．6
2学級	6．6	5．0
1学級	3．6	3．4

○　生徒数の多い学校では、中学校にはない団体競技や文化系活動が多数設置されている。
（例：ラグビー、ハンドボール、軽音楽など）

2　主な団体種目等の設置率

第1学年の学級数	体育系		文化系
	野球（硬式）	サッカー	吹奏楽
6学級	100．0%	100．0%	94．4%
4学級	88．0%	92．0%	92．0%
2学級	71．0%	67．7%	71．0%
1学級	43．3%	23．0%	60．0%

教育水準の維持向上
と教育環境の充実

高校進学希望者数に
見合った定員の確保

一定規模の生徒及び教職員の集団を維持し、活力ある教育活動を展開するなど、1学年4～8学級という一定の学校規模を求める考え方は重要な観点の一つ

1学年3学級以下の小規模校についても、少人数の特性を生かしたきめ細やかな指導や地域と一体となった教育活動を実施している特色を生かして魅力を高めていくことも大切

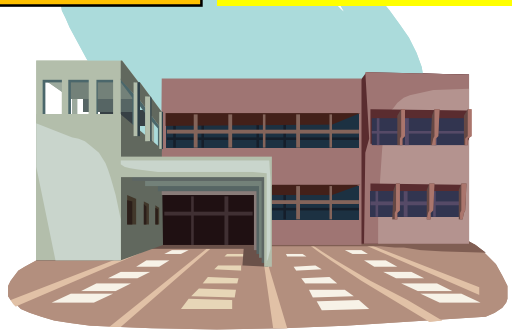
一律の学校規模を目指すのではなく、それぞれの高校の機能や特色、求められる役割などを踏まえつつ、学校規模を検討

圏域内の高校全体として、生徒の多様な学習ニーズに応える特色と魅力のある教育を実現

再　編

新設○△高校

○○高校



△△高校

■ 再編によるメリット等

～　一定規模の生徒及び教員数を維持　～

- ○ 多様な個性を持つ生徒と出会い、切磋琢磨する機会が得られる。
- ○ 生徒の学習ニーズに応える多様で柔軟な教育課程が編成できる。
- ○ より多くの教職員から、多様な見方や考え方を学ぶことができる。
- ○ 生徒会活動や部活動が活性化する。
- ○ 両校のこれまでの伝統を継承しつつ、生徒の学習ニーズに対応した多様なタイプの高校づくりにより、更なる活性化が図られる。

■ 再編による課題

- ○ 遠距離通学等の経済的・精神的・肉体的負担が増加する。
- ○ 学校選択幅の縮小につながる。
- ○ 再編前の高校の伝統や取組等の継承。
- ○ 地域振興や地域経済への影響が懸念される。
- ○ 保護者、受検生等の新設校への不安がある。

③　修学を支援する制度

高等学校生徒遠距離通学費等補助制度

★道立高校の募集停止に伴い、居住していた市町村(合併前)に通学可能な高校が所在しなくなった場合

補助対象
①中学校卒業時に募集停止校所在市町村等に居住していた生徒
②道立高校が募集停止となる前年度に中学生であった生徒(高校に入学してから卒業するまでの期間)
③募集停止校所在市町村と同じ通学区域に所在する高校(道立、市町村立、私立)に修学した生徒

※ 通学費等負担者等の所得要件(世帯人員に応じ、生計を一にする世帯全員の前年の収入額又は所得額の合算額が次のいずれかの額未満の世帯)

区　分	2人以下	3　人	4　人	5　人	6　人	7人以上
収入基準額	5,584千円	6,020千円	6,296千円	6,560千円	6,759千円	所得換算額から別途積算
上記収入基準額の所得換算額	3,923千円	4,273千円	4,493千円	4,703千円	4,883千円	1人増すごとに160千円を加算

★補助額
①通学費　月額実費負担額(通学定期券の額)に対し10,000円を超える額を補助(上限あり)
②下宿費　月額実費負担額(部屋代)に対し10,000円を超える額を補助(上限あり)

★補助期間
高校がなかった地域との均衡を図ることを考慮し、募集停止後5年間

北海道公立高校生等奨学給付金（返還不要）

★支給要件に該当する世帯に、授業料以外の教育に必要な経費として定額を給付する事業です。
（返還の必要なし）

○支給要件（以下の全ての要件を満たす必要があります。）

- 基準日（令和6年（2024年）7月1日現在）に生活保護世帯又は保護者（親権者）等全員の道府県民税所得割及び市町村民税所得割が非課税であること
- 基準日に保護者（親権者）等が道内に住所を有していること
- 基準日に高等学校等に在籍していること

★支給額（公立:生徒一人当たりの年額）（予定）

①生活保護（生業扶助）受給世帯	32,300円
②道府県民税所得割及び市町村民税所得割が非課税世帯（③を除く）	122,100円 （通信制・専攻科:50,500円）
③道府県民税所得割及び市町村民税所得割が非課税世帯で、23歳未満の扶養されている兄・姉がいる世帯	143,700円 （通信制・専攻科:50,500円）

★申請方法

- 令和6年（2024年）7月1日現在、支給要件に該当する生徒の保護者等が、学校へ申請書を提出（申請内容を審査し、該当者へは年内を目途に給付を予定。）

その他の奨学金制度

○ 『北海道高等学校等生徒奨学金』
（実施主体：公益財団法人北海道高等学校奨学会）

○ 『生活福祉資金（教育支援資金）』
（実施主体：北海道社会福祉協議会）

○ その他、市町村等が独自に実施している奨学金

この他にも、日本学生支援機構（JASSO）のホームページに、地方公共団体の奨学金制度が公表されています。
【アドレス】
https://www.jasso.go.jp/shogakukin/dantaiseido/index.html

④　生徒の多様な学習ニーズへの対応
（生徒の学習の選択幅の拡大）

・多様なタイプの高校づくりの推進

多様なタイプの高校づくりの推進

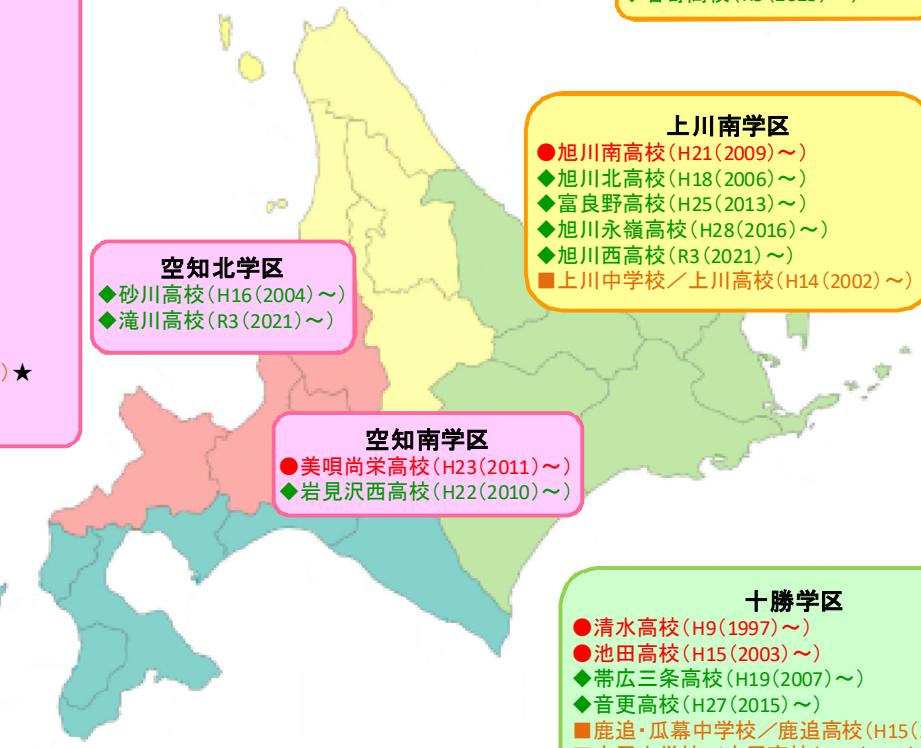
令和6年（2024年）4月1日現在

総合学科	○設置校数　１８校（市町村立高校２校を含む。） ○国語、数学などの共通教科から専門教科にわたる幅広い科目を開設している。
全日制 普通科単位制・ 専門学科単位制	○導入校数　４１校（市町村立高校５校を含む。） ○総合学科に次いで、多くの科目を開設している。
普通科 フィールド制	○導入校数　　２校 ○発展的な内容を扱った科目や自然科学、ビジネスなどの科目のまとまりをフィールドとして複数設定している。
アンビシャス スクール	○導入校数　　２校 ○少人数の学習集団の編制や基礎的な内容に重点を置いた30分授業など、基本的な能力・態度の育成に重点を置いた教育活動を展開している。
中高一貫教育	○連携型　中学校９校・高校８校 ○中等教育学校　２校（札幌市立学校１校を含む。） ○中学校・高校６年間の計画的・継続的な教育活動を展開している。

多様なタイプの高校の設置状況

●総合学科　◆全日制普通科単位制
全日制専門学科単位制
▲普通科フィールド制　■中高一貫教育
【ｱﾝﾋﾞｼｬｽ】アンビシャススクール

丸数字は該当学年、★は市町村立高校



石狩学区
- ●石狩翔陽高校（H13（2001）～）
- ●札幌厚別高校（H25（2013）～）
- ●【ｱﾝﾋﾞｼｬｽ】千歳北陽高校（R4（2022）～）
- ◆市立札幌旭丘高校（H16（2004）～）★
- ◆札幌手稲高校（H17（2005）～）
- ◆札幌白石高校（H21（2009）～）
- ◆札幌白陵高校（H23（2011）～）
- ◆札幌東陵高校（H25（2013）～）
- ◆札幌英藍高校（H25（2013）～）
- ◆北広島高校（H23（2011）～）
- ◆大麻高校（H24（2012）～）
- ◆市立札幌清田高校（R2（2020）～）★
- ◆市立札幌藻岩高校（R3（2021）～）★
- ▲札幌平岡高校（H21（2009）～）
- ▲札幌あすかぜ高校（H23（2011）～）
- ■市立札幌開成中等教育学校（H27（2015）～）★
- 【ｱﾝﾋﾞｼｬｽ】野幌高校（R4（2022）～）

留萌学区
- ◆留萌高校（H26（2014）～）

宗谷学区
- ◆稚内高校（R1（2019）～）

上川北学区
- ●剣淵高校（H21（2009）～）★
- ◆名寄高校（R5（2023）～）

オホーツク西学区
- ◆遠軽高校（H23（2011）～）
- ■上湧別中学校／湧別高校（H17（2005）～）

上川南学区
- ●旭川南高校（H21（2009）～）
- ◆旭川北高校（H18（2006）～）
- ◆富良野高校（H25（2013）～）
- ◆旭川永嶺高校（H28（2016）～）
- ◆旭川西高校（R3（2021）～）
- ■上川中学校／上川高校（H14（2002）～）

オホーツク中学区
- ●留辺蘂高校（H12（2000）～）
- ◆北見柏陽高校（H21（2009）～）
- ◆北見緑陵高校（R3（2021）～）

空知北学区
- ◆砂川高校（H16（2004）～）
- ◆滝川高校（R3（2021）～）

オホーツク東学区
- ●斜里高校（H16（2004）～）
- ●大空高校（R3（2022）～）★
- ◆網走南ケ丘高校（H20（2008）～）

根室学区
- ◆根室高校（H29（2017）～）
- ■知床未来中学校／羅臼高校（H19（2007）～）

空知南学区
- ●美唄尚栄高校（H23（2011）～）
- ◆岩見沢西高校（H22（2010）～）

後志学区
- ●余市紅志高校（H22（2010）～）
- ◆倶知安高校（H22（2010）～）
- ◆小樽桜陽高校（H23（2011）～）
- ◆岩内高校（H29（2017）～）
- ◆小樽未来創造高校（H30（2018）～）

十勝学区
- ●清水高校（H9（1997）～）
- ●池田高校（H15（2003）～）
- ◆帯広三条高校（H19（2007）～）
- ◆音更高校（H27（2015）～）
- ■鹿追・瓜幕中学校／鹿追高校（H15（2003）～）
- ■広尾中学校／広尾高校（H18（2006）～）

釧路学区
- ●釧路明輝高校（H19（2007）～）
- ●標茶高校（H12（2000）～）
- ◆釧路江南高校（H17（2005）～）
- ◆釧路北陽高校（R4（2022）～）★

檜山学区
- ●檜山北高校（H14（2002）～）
- ◆江差高校（H16（2004）～）
- ■奥尻中学校／奥尻高校（H29（2017）～）★

渡島学区
- ●森高校（H11（1999）～）
- ◆市立函館高校（H19（2007）～）★
- ◆函館西高校（R1（2019）～）

胆振西学区
- ●室蘭東翔高校（H18（2006）～）
- ◆室蘭清水丘高校（H18（2006）～）
- ◆伊達開来高校（R3（2021）～）
- ◆登別青嶺高校（R3（2021）～）
- ■登別明日中等教育学校（H19（2007）～）

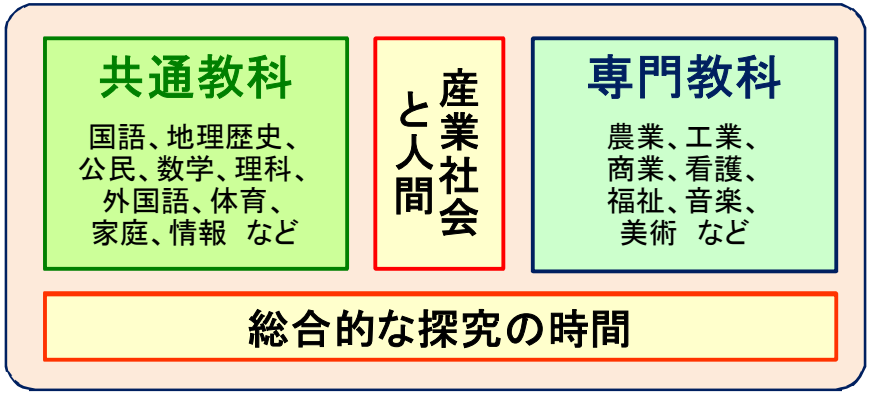
胆振東学区
- ◆苫小牧南高校（H22（2010）～）
- ■鵡川中学校／鵡川高校（H15（2003）～）

日高学区
- ●浦河高校（H24（2012）～）
- ◆静内高校（H21（2009）～）
- ■えりも中学校／えりも高校（H16（2004）～）★

(1)総合学科

- 総合学科は、普通科と専門学科にならぶ新たな学科として設けられたもので、国語、数学などの共通教科から専門教科にわたって幅広く科目を開設しています。生徒は、将来の職業選択を視野に入れて自己の進路への自覚を深めながら幅広い選択科目の中から自分で科目を選択して学ぶことができます。

総合学科の科目構成



将来の職業選択を意識し、自分に合った進路をじっくり考えながら決めることができます。

学ぶことの楽しさや喜び、達成感を味わうことができるよう、興味・関心等に応じた学習を重視します。

「産業社会と人間」では、自分が就きたい職業や自分の生き方について深く考えることができます。

総合学科の配置状況

管内	学校名	系列名
空知	美唄尚栄	文理・教養、メカトロ・エンジニア、情報通信マネジメント、デザイン、フード
石狩	石狩翔陽	人文・自然科学、ビジネス・情報、芸術・スポーツ、生活・福祉
	札幌厚別	数理、人文、美術（絵画、彫刻、クラフトデザイン、メディアデザイン）、音楽（ピアノ、弦楽器、管楽器、声楽）
	千歳北陽	文理探究、産業経済、地域創造、課題研究
後志	余市紅志	国際理解、生産ビジネス、生活・福祉
胆振	室蘭東翔	人文科学、自然科学、生活創造、ビジネス、看護医療
日高	浦河	人文科学、自然科学、情報・ビジネス、地域創生
渡島	森	文理総合、生活・環境、健康・福祉、情報・ビジネス
檜山	檜山北	人文・自然科学、生活・地域理解、情報ビジネス
上川	旭川南	人間文化、社会科学、自然科学、医療・看護、情報・ビジネス、国際コミュニケーション
	剣淵	農業国際、生活福祉、未来のしんろ
オホーツク	留辺蘂	国際（国際理解、環境）、福祉（福祉、保育、ビジネス）
	斜里	人文、自然科学、知床・産業
	大空	文理探究、スマートアグリ探究
十勝	清水	社会創造、科学技術、食品ビジネス、保健福祉
	池田	文理、地域・福祉、スポーツ・芸術
釧路	標茶	文化理解、地域環境、酪農・食品
	釧路明輝	人文科学、自然科学、国際理解、グローバルビジネス、メディア・アート、福祉・生活

総合学科の系列

興味・関心や能力・適性、卒業後の進路希望に合わせて科目を選択する目安になるように、相互に関連の深い、いくつかの科目をまとめたグループ(科目群)を「系列」と呼んでいます。

人文・自然科学系列

国語・地理歴史・公民・数学・理科・英語を中心とした科目群。
大学や高等看護学校等への進学を希望する生徒が多く選択しています。

生活・地域理解系列

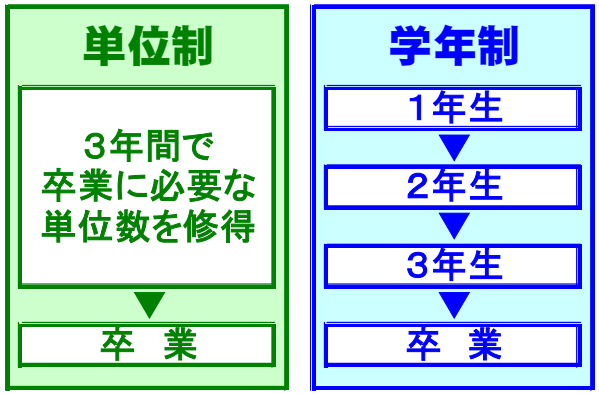
農業、家庭等の専門科目を中心とした科目群。
幼児教育、福祉系、農業系への進学、食品製造・加工業への就職や公務員を希望する生徒が多く選択しています。

情報ビジネス系列

情報、商業を中心とした科目群。
商業・情報系への進学・就職や公務員を希望する生徒が多く選択しています。

(2) 全日制普通科単位制、全日制専門学科単位制

- 全日制普通科単位制では共通教科を中心に、また、全日制専門学科単位制では専門教科を中心に、多様な選択科目を開設しており、生徒は自分の興味・関心や進路希望等に応じて必要な科目を選択して学ぶことができます。



普通科では国語、数学などの共通教科を、専門学科では商業などの専門教科を中心に、進路希望等に応じた多様な選択科目を開設しています。

生徒の学習の実態や進路希望等に応じて、少人数授業や習熟度別授業など、きめ細かな学習指導を行っています。

多様な教科・科目の中から生徒一人ひとりが学習内容を選択し、自分の時間割を作って学習しています。

普通科単位制及び専門学科単位制の配置状況

導入校 41校

【空知】 岩見沢西、砂川、滝川（普通、理数）
【石狩】 市立札幌旭丘（普通、数理データサイエンス）、札幌手稲、札幌白石、札幌白陵（2、3年生）、北広島、大麻、札幌東陵、札幌英藍、市立札幌清田、市立札幌藻岩
【後志】 倶知安、小樽桜陽、岩内（普通、商業）、小樽未来創造（商業、工業）
【胆振】 室蘭清水丘、苫小牧南、伊達開来、登別青嶺
【日高】 静内
【渡島】 市立函館、函館西
【檜山】 江差
【上川】 旭川北、富良野、旭川永嶺、旭川西（普通、理数）、名寄
【留萌】 留萌（普通）
【宗谷】 稚内（普通、商業）
【オホ】 北見柏陽、網走南ケ丘、遠軽 、北見緑陵
【十勝】 帯広三条、音更
【釧路】 釧路江南、釧路北陽
【根室】 根室（普通、商業）

(3) 普通科フィールド制

- 普通科フィールド制は、フィールドとよぶ科目群を複数設定しています。生徒は、興味・関心や進路希望等に応じて自分でフィールドを選択して学ぶことができます。

<table>
<tr><td colspan="2">1 学年</td><td colspan="3">全ての生徒が共通に学ぶ科目</td></tr>
<tr><td rowspan="4">2・3学年</td><td>Aフィールド</td><td rowspan="4">全ての生徒が共通に学ぶ科目</td><td>Aフィールド指定科目</td><td rowspan="4">フィールド共通選択科目</td></tr>
<tr><td>Bフィールド</td><td>Bフィールド指定科目</td></tr>
<tr><td>Cフィールド</td><td>Cフィールド指定科目</td></tr>
<tr><td>Dフィールド</td><td>Dフィールド指定科目</td></tr>
</table>

１学年では、将来の進路等を十分考慮してフィールドを選択できるようガイダンスを行い、２学年以降にフィールドを選択します。

フィールドは、キャリア教育の観点に立って、生徒の興味・関心や進路希望等に対応できるよう、複数の分野にわたって設定しています。

各フィールドでは、専門的な分野の学習の基礎・基本に触れたり、特定の分野についてより深く学んだりすることができます。

普通科フィールド制の配置状況

	管内	学校名	フィールド名
導入校 ２校	石狩	札幌平岡	文理総合、自然科学、人文科学、社会教養
		札幌あすかぜ	ビジネス、国際理解、生命・数理

(4)アンビシャススクール

- アンビシャススクールは、生徒が自己の生き方を考えながら、「分かる喜び」を感じたり、「もっと学びたいという気持ち」を高めたりするため、学ぶ意欲に応える学習指導により、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や社会生活や職業生活に必要な基本的な能力や態度の育成に重点を置いた学校です。

校時	分	月	火	水	木	金
0	10	朝の10分学習				
ＳＨＲ						
1	30	30分授業（基礎国語）			学校設定科目	
2	30	30分授業（基礎数学）				
	30	30分授業（基礎英語）				
3	50					

※３校時以降は50分授業（記載省略）

20名～30名の少人数の学習集団を編制し、それぞれに担任を配置しています。

スクールカウンセラーを活用するなど、教育相談体制を充実しています。

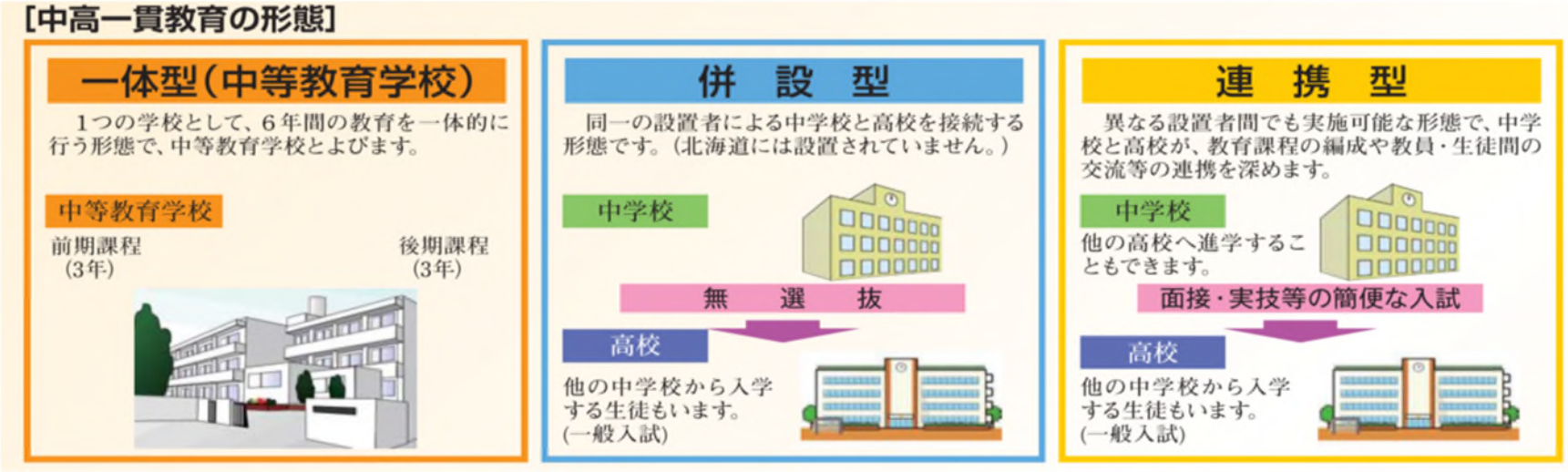
社会人による進路講話など、将来を考える豊富な機会があります。

アンビシャススクールの配置状況

導入校 2校	【石狩】野幌、千歳北陽

(5) 中高一貫教育

- 生徒や保護者が６年間の一貫教育も選択できるようにすることにより、中等教育の一層の多様化を促進し、生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を目指します。



中学校・高校６年間の計画的・継続的な教育活動を行っています。

高校入試の影響を受けずにゆとりある学校生活を送ることができます。

異年齢集団による活動を通して社会性や豊かな人間性を育みます。

中高一貫教育を行う学校の配置状況

中等教育学校　2校

管内	学校名
石狩	市立札幌開成中等教育学校
胆振	登別明日中等教育学校

連携型　8地域

管内	学校名（中学校、高校）		管内	学校名（中学校、高校）		管内	学校名（中学校、高校）	
胆振	鵡川中学校	鵡川高校	上川	上川中学校	上川高校	十勝	広尾中学校	広尾高校
日高	えりも中学校	えりも高校	オホーツク	上湧別中学校※	湧別高校	根室	知床未来中学校	羅臼高校
檜山	奥尻中学校	奥尻高校	十勝	鹿追中学校 瓜幕中学校	鹿追高校			

※湧別町立芭露学園及びゆうべつ学園は、義務教育学校のため、連携型中高一貫教育校として扱うことができませんが、上湧別中学校とともに、湧別高校と連携した教育活動を実施しています。

（参考）普通科新学科（令和6年度設置）

国の規則の改正により、「普通教育を主とする学科」に、今までの普通科に加え、新たな普通科の設置が可能になりました。

普通科新学科とは??

普通科新学科

※　「今までの普通科」に加わった、３つの「新たな普通科」です。

今までの普通科

普通科

学際領域に関する学科

地域社会に関する学科

その他普通科

釧路湖陵高校（文理探究科）
※学際領域に関する学科

○　生徒が選択した国際社会や日本社会の課題についてテーマを設定し、多様な学問領域からアプローチして探究活動を実施します。
（例：エネルギー資源、人権・福祉、津波・防災　など）

大樹高校（地域探究科）
※地域社会に関する学科

○　持続可能な地域社会を創生するため、地域の課題や魅力発見、課題解決をテーマに、フィールドワーク等を行って分野横断的に考察し、その解決の方策を探究します。（例：人口の環流、地場産業の発展　など）

（参考）普通科新学科（令和6年度設置）

普通科新学科の教育課程の特徴	①各学科の特色等に応じた「学校設定教科に関する科目」を設置し、全ての生徒が２単位以上を履修します。 ②「総合的な探究の時間」と①を合わせて６単位以上を全ての生徒が履修し、相互の時間を関連させながら、系統的・発展的な探究活動を行います。

【今までの普通科の３年間の学習イメージ】

教科等	１学年	２学年	３学年
国語	現代		探究
地理歴史	歴史		探究
公民	公		理
数学	数		Ⅲ
理科	化学基礎	化学	物理
探究	総合的な探究の時間		

今までの普通科

【普通科新学科の３年間の学習イメージ】

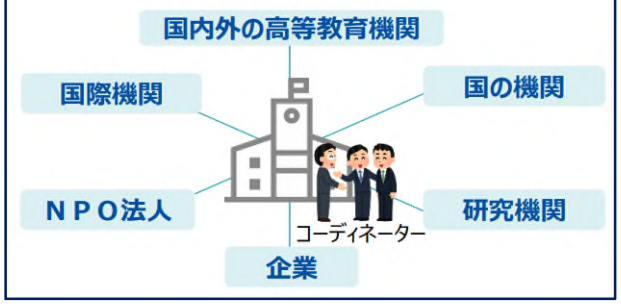
教科等	１学年	２学年	３学年
国語	現代		探究
地理歴史	歴史		探究
公民	公		理
数学	数		Ⅲ
理科	化学基礎	化学	物理
探究	総合的な探究の時間		
		学校設定教科に関する科目	

今までの普通科と同じ学び

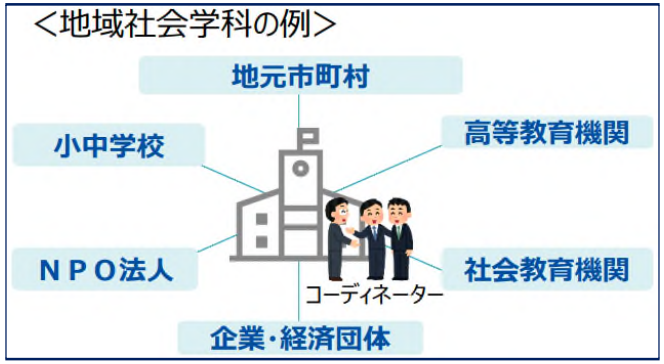
各教科・科目の学びと「学校設定教科に関する科目」、「総合的な探究の時間」を相互に関連付けた教育活動を展開します。

連携体制の構築	学際領域に関する学科、地域社会に関する学科については、生徒の探究活動を支えるため、関係機関との連携し、協力体制を構築します。

<学際領域学科の例>



<地域社会学科の例>



多様なタイプの高校の成果

総合学科	○「産業社会と人間」の指導などを通して、生徒が就きたい職業や自分の生き方を考え、将来を見通した進路選択ができるようになった。 ○各種検定や資格取得に取り組む生徒が増加した。 ○生徒の希望する進路に応じたきめ細かな指導を継続して実施することにより、大学進学率が上昇した。
全日制普通科 単位制・専門 学科単位制	○主体的な科目選択、少人数指導や習熟度別指導、さらには高大連携の実施などにより学習に意欲的に取り組む生徒が増加した。 ○大学進学率や就職内定率などの進路実績が向上した。
普通科 フィールド制	○学校設定科目など、多くの選択科目の設置により、生徒の学習意欲が高まった。 ○進路希望等に応じたフィールドを選択することにより、生徒の積極的な進路選択につながった。
アンビシャス スクール	○基礎的な内容に重点を置いた授業により、中学校で理解できなかった内容を十分に理解し、高校の学習に入ることができた。 ○30分授業により、授業の最後まで集中力を持続させることができた。
中高一貫教育	○中高の教員によるティーム・ティーチングなどにより、生徒の学習意欲の向上や基礎・基本の定着が図られた。 ○異年齢交流を行うことで、生徒のリーダーシップや責任感が醸成された。 ○６年間を見通した進路指導の工夫により、進路意識が高まった。

多様なタイプの高校の課題

郡部校の小規模化

【４学級を下回る学校数】
・総合学科　　１７校のうち１２校（うち市町村立高校２校）
・全日制普通科単位制　　４１校のうち　８校

タイプごとの課題

（総合学科）
○目的意識が希薄な生徒に対して、将来の進路選択を踏まえた科目選択の指導の充実を図る必要がある。

（全日制普通科単位制・専門学科単位制）
○科目選択のためのガイダンスの充実や、多様な進路希望等に対応した科目の開設など、教育課程の一層の工夫・改善が必要である。

（普通科フィールド制）
○第３学年に進級する際のフィールド変更にも対応できるよう、教育課程の工夫・改善を図る必要がある。

（アンビシャススクール）
○多様な生徒に対応するため、30分授業による基礎・基本の充実のほか、スクールカウンセラーを効果的に活用するなど、学校教育活動全体を関連付けて生徒を支援する必要がある。

（中高一貫教育）
○連携中学校以外から入学した生徒に対応するため、授業や学校生活を進める上での配慮が必要である。

○多様なタイプの高校が、より一層特色ある教育活動を推進できるよう、教育内容の充実や、指導方法の工夫・改善に向けた支援を行う。
○総合学科や普通科単位制・専門学科単位制などの魅力を、多くの生徒や保護者等に積極的に発信する。

北海道高等学校遠隔授業配信センター（T-base）

T-baseは、小規模な高校でも、大学進学等の多様な進路希望に対応した教科・科目を開設することができるよう、令和３年度に新たに開設した遠隔授業の配信拠点です。

■ T-baseの特長

- **専任教員**が行う遠隔授業による**単位の修得**が可能
- 小規模校では開設が困難な教科・科目の配信や習熟度別授業等の実施
- 複数校への同時配信による**合同授業**を実施
- 大学進学など、同じ目標をもった他校の仲間との**切磋琢磨した学び**が可能
- 夏季、冬季期間の**遠隔講習**を開講
- **最新の進路情報**を踏まえ、受信校の進路指導を支援

■ 受信校　31校（令和６年度）

管内	学校数	学校名		
空知	2	夕張	月形	
後志	2	寿都	蘭越	
胆振	3	虻田	厚真	穂別
日高	1	平取		
渡島	4	松前 南茅部	福島商業 長万部	
檜山	1	上ノ国		
上川	2	下川商業	美深	
留萌	2	苫前商業	天塩	
宗谷	3	豊富	礼文	利尻
ｵﾎｰﾂｸ	6	津別 常呂	清里 興部	佐呂間 雄武
十勝	1	本別		
釧路	2	阿寒	弟子屈	
根室	2	羅臼	標津	

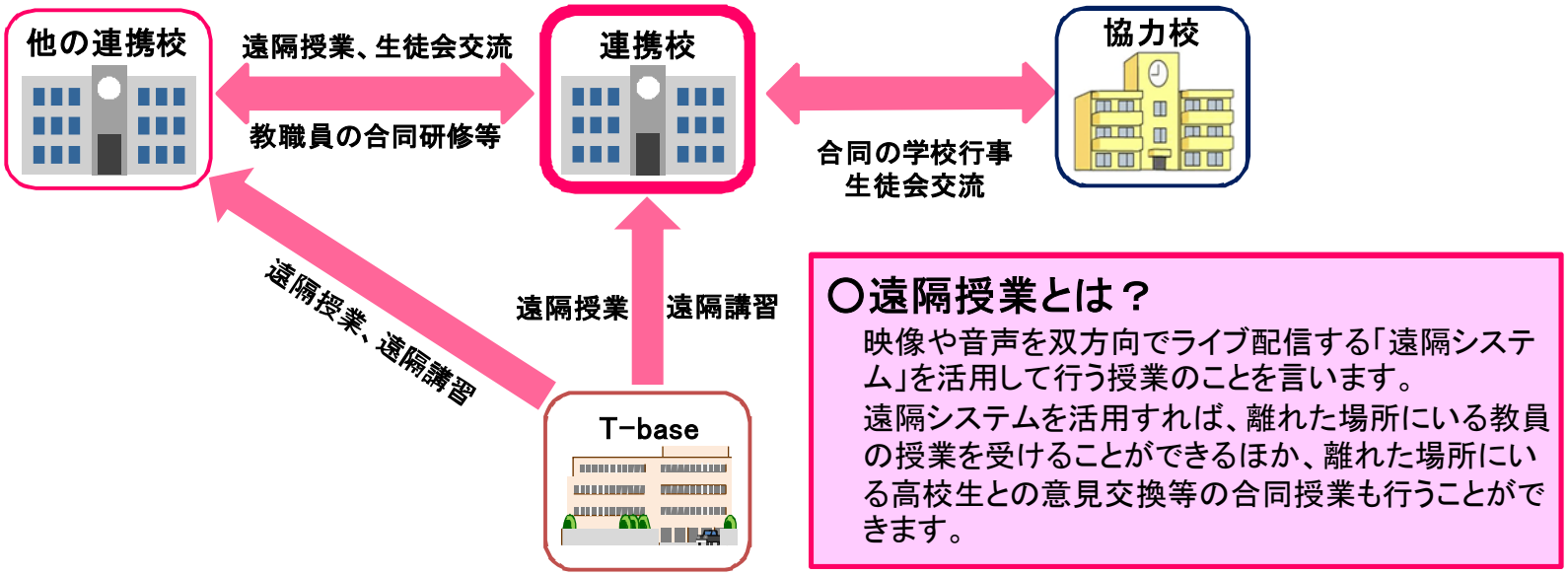
※ 当分の間、地域連携校及び離島の道立高校を対象としています。

詳しくは各受信校の
ウェブページ等を御覧ください。

地域連携校

地域連携校は、第１学年１学級の小規模な高校であっても、近隣の高校（地域連携協力校）やT-base等と連携し、遠隔授業などによる教育環境の充実を図るほか、学校と地域が連携して学校の魅力化や特色づくりを進める、北海道独自の制度です。

●地域連携校と他校との連携のイメージ図（令和６年度）



○遠隔授業とは？

映像や音声を双方向でライブ配信する「遠隔システム」を活用して行う授業のことを言います。
遠隔システムを活用すれば、離れた場所にいる教員の授業を受けることができるほか、離れた場所にいる高校生との意見交換等の合同授業も行うことができます。

●他校との連携による教育環境の充実

第１学年１学級の高校は教員数が少ないため、地理歴史、公民、理科、芸術などの開設科目が限られます。地域連携校では、同一通学区域内の高校を地域連携協力校に指定し、地域連携協力校やT-baseとの授業に関する連携を行うことにより、選択科目の開設や少人数指導、習熟度別指導の実施を可能とするほか、合同の学校行事や部活動、生徒会交流など様々な連携を行い、教育環境の充実を図っています。

また、地域連携校には遠隔システムが導入されており、離れた場所にある地域連携校との間で遠隔授業や生徒会交流なども行っています。

道立学校間連携の取組

近隣の道立学校（高校、特別支援学校等）が連携し、相互に教員を派遣することにより、道立学校の教育課程の維持充実や、教育活動の一層の推進を図る。

近隣の２校間で相互補完

令和5年度（2023年度）は16組26校

【教育課程の維持・充実のための連携】（高校と高校の連携の例）

- ◆ A高校の音楽の授業に、B高校の音楽の教員を派遣
  （週2時間　音楽Ⅰ）　**※A高校は芸術教員が未配置**
- ◆ B高校の家庭科の授業に、A高校の家庭科の教員を派遣
  （週2時間　家庭基礎）　**※B高校は家庭科教員が未配置**

令和5年度から
遠隔授業による
連携も可能に！

【少人数指導等のための連携】（高校と特別支援学校の連携の例）

- ◆ C高校の数学の習熟度別指導に、D特別支援学校の数学の教員を派遣
  （週1時間　数学Ⅰで実施）
- ◆ D特別支援学校の英語のティーム・ティーチングに、C高校の英語の教員を派遣
  （週1時間　コミュニケーション英語Ⅰで実施）

小規模総合学科校等による地域と連携・協働した高校魅力化推進事業

小規模の多様なタイプの高校が、地域創生の観点から地域と連携・協働して実施する高校の特色化・魅力化に向けた取組を支援しています。

対象校：第１学年３学級以下の多様なタイプ（総合学科、全日制普通科単位制、全日制専門学科単位制、普通科フィールド制、連携型中高一貫校）の道立高校

【実践テーマ】

- ◆ 地域と連携・協働した組織体制の構築に向けた取組
- ◆ 地域創生や持続可能な社会づくりの観点からの探究活動等の充実に向けた取組
- ◆ その他、地域の高校としての魅力化を推進するための教育活動に関する取組

【指定方針】

実践テーマに従い、高校の魅力化に向けた優れた取組を実施する高校を指定

【令和5年度（2023年度）実績】

総合学科8校、普通科単位制2校、連携型中高一貫4校で推進

再掲

高等学校生徒遠距離通学費等補助制度

★道立高校の募集停止に伴い、居住していた市町村（合併前）に通学可能な高校が所在しなくなった場合

補助対象
①中学校卒業時に募集停止校所在市町村等に居住していた生徒
②道立高校が募集停止となる前年度に中学生であった生徒（高校に入学してから卒業するまでの期間）
③募集停止校所在市町村と同じ通学区域に所在する高校（道立、市町村立、私立）に修学した生徒

※ 通学費等負担者等の所得要件（世帯人員に応じ、生計を一にする世帯全員の前年の収入額又は所得額の合算額が次のいずれかの額未満の世帯）

区　分	2人以下	3　人	4　人	5　人	6　人	7人以上
収入基準額	5,584千円	6,020千円	6,296千円	6,560千円	6,759千円	所得換算額から別途積算
上記収入基準額の所得換算額	3,923千円	4,273千円	4,493千円	4,703千円	4,883千円	1人増すごとに160千円を加算

★補助額
①通学費　月額実費負担額（通学定期券の額）に対し10,000円を超える額を補助（上限あり）
②下宿費　月額実費負担額（部屋代）に対し10,000円を超える額を補助（上限あり）
★補助期間
高校がなかった地域との均衡を図ることを考慮し、募集停止後5年間